MINKABU THE INFONOID
株式会社　ミンカブソリューションサービシーズ
東京都港区東新橋1-9-1

為替週間展望＝ドル円は１５０～１５１円台で底堅い動きか

［１１月２０日からの１週間の展望］

－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－

週間高低（カッコ内は日）　11 月 13 日～ 11 月 17 日

	始 値	高 値	安 値	終 値	前週比
ドル・円	151.51	151.91(13)	150.06(15)	150.60	-0.92
ユーロ・ドル	1.0686	1.0896(16)	1.0665(13)	1.0853	+0.0167

＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝

国内株・金利／米国株・金利

	終 値	前週末比		終 値	前週末比
日経平均株価	33,585.20	+1017.09	日本10年債利回り	0.757	-0.093
ダウ平均株価	34,945.47	+662.37	米10年債利回り	4.436	-0.216

＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝

<来週の主要経済統計等>

２０日　中国最優遇貸出金利（ローンプライムレート　１年、５年）
　　独１０月生産者物価指数
　　米１０月景気先行指数
２１日　ＮＺ１０月貿易収支
　　カナダ１０月消費者物価指数
　　米１０月中古住宅販売件数
　　米連邦公開市場委員会（ＦＯＭＣ）議事要旨（１０月３１日－１１月１日開催分）
２２日　米１０月耐久財受注速報値、米新規失業保険申請件数
　　米１１月ミシガン大学消費者信頼感指数確報値
２３日　独１１月製造業ＰＭＩ速報値、独１１月サービス業ＰＭＩ速報値
　　ユーロ圏１１月製造業ＰＭＩ速報値、ユーロ圏１１月サービス業ＰＭＩ速報値
　　英１１月製造業ＰＭＩ速報値、英１１月サービス業ＰＭＩ速報値
２４日　ＮＺ第３四半期小売売上高
　　日本１０月消費者物価指数
　　日本９月景気動向指数改定値
　　独第３四半期ＧＤＰ確報値
　　独１１月ｉｆｏ景況感指数
　　カナダ９月小売売上高
　　米１１月製造業ＰＭＩ速報値、米１１月サービス業ＰＭＩ速報値

－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－

【前回のレビュー】ドルは底固く、円は売られやすい流れが続いて、ドル円は高値圏での振幅が継続するとみられる。なお、ドル円は１０月３１日の高値１５１．７２が目先の上値のメドとみられるが、同水準が接近すると、政府・日銀によるドル売り円買い介入への警戒感から上値を抑えられやすい展開になるとした。

【ドル円は米消費者物価指数（ＣＰＩ）後に急落も戻す】
　１４日に発表された１０月の米消費者物価指数は前月比変わらず、前年比＋３．２％となり、それぞれ事前予想の＋０．１％、＋３．３％を下回った。コア指数は前年比＋０．２％、前年比＋４．０％となり、それぞれ事前予想の＋０．３％、＋４．１％を下回った。

　米消費者物価指数が市場予想を下回ったことで、米連邦準備制度理事会（ＦＲＢ）による利上げ打ち止め観測が広がった。これを受けて、米１０年債利回りは４．４３０％近辺まで急低下して、ドル売り円買いにつながった。１４日のドル円は一時１５０．１６近辺まで下落した。

１５日の米生産者物価指数は、前月比－０．５％、前年比＋１．３％とそれぞれ事前予想の＋０．１％、＋１．９％を下回った。コア前月比は前月比変わらず、前年比＋２．４％となり、こちらも事前予想を下回った。米消費者物価指数に続いて、米生産者物価指数も予想から下振れしたことでドル売りの動きとなり、ドル円は一時１５０．０６付近まで下落した。

ただ、この日は１０月の米小売売上高が市場予想ほどの落ち込みを見せなかったことや１１月のＮＹ連銀製造業景気指数が予想を上回ったことなどを受けて、１５１．４２前後まで上値を伸ばした。１５０円近くまで下落した後の戻りはドル買いだけでなく、円売りの影響も大きく、ユーロ円、ポンド円、豪ドル円などは１４～１５日に戻りの動きを見せた。

ただ、ドル円は一方向の動きとはなりにくくなっている。１６日には米新規失業保険申請件数が市場予想を上回り、雇用情勢の悪化が示された。１０月の米輸入物価指数、１０月の米鉱工業生産、１１月のＮＡＨＢ住宅市場指数も市場予想を下回った。一連の米経済指標の悪化を受けて、ドル売りの動きとなって、ドル円は１５０．２９近辺まで下落した。その後は１５０円台半ばから後半まで下げ渋りを見せている。

ＣＭＥ　ＦＥＤｳｫｯﾁによると、１２月の米連邦公開市場委員会（ＦＯＭＣ）では、政策金利据え置きとの見方が９９．７％となっている。来年１月のＦＯＭＣでも据え置きの確率が９６％前後、０．２５％の利下げ確率が４％前後となっている。来年３月のＦＯＭＣでは、政策金利据え置きの確率は６６％前後、０．２５％利下げの確率が３２％前後となっており、米経済指標の悪化が続くと利下げ期待が高まる傾向にある。

１１月２０日の週は米連邦公開市場委員会（ＦＯＭＣ）議事要旨や米経済指標に左右されやすい動きとなろう。また、米国の株式や金利動向に影響を受けやすいとみられる。ただ、利上げ打ち止め観測が広がったとはいえ、政策金利の高止まりが続くとみられる。米１０年債利回りは４．５％割れの水準はあまり長くは続かず、４．５％以下の水準では上昇に傾きやすく、ドルの下値を支えそうだ。

また日銀は緩和的な金融政策を継続するとみられることから、円は売られやすい展開となりそうだ。こうした中、ドル円は１５０～１５１円台を中心に底堅い動き見込まれる。なお、１５１円台後半から上の水準では、政府・日銀によるドル売り円買い介入への警戒感から上値を抑えられるか、上昇ペースが鈍化するとみられる。ドル円の目先の予想レンジは、１４９．００～１５２．７５円。

日米の経済指標やイベントとしては、２０日に米１０月景気先行指数、２１日に米１０月中古住宅販売件数、米連邦公開市場委員会（ＦＯＭＣ）議事要旨、２２日に米１０月耐久財受注速報値、米新規失業保険申請件数、米１１月ミシガン大学消費者信頼感指数確報値、２４日に日本１０月消費者物価指数、日本９月景気動向指数改定値、米１１月製造業ＰＭＩ速報値、米１１月サービス業ＰＭＩ速報値などがある。

【ユーロドルは上昇基調が継続か】

１４日に１１月の独ＺＥＷ景況感指数が市場予想を上回ったことで、ユーロドルは堅調な動きを見せた。その後、１０月の米消費者物価指数が予想から下振れすると、ユーロ買いドル売りの動きに傾き、１．０７台前半から１．０８８７近辺まで急伸した。急伸の反動から１５日以降はやや軟化したものの、高値圏を維持している。

１０月以降のユーロドルは大きく上値を伸ばした後は、数日間の調整の後、再び上値を追う展開を見せている。５日移動平均線やボリンジャーバンド＋１Σなどにサポートされて、上昇基調が継続するとみられる。ユーロドルの目先の予想レンジは、１．０７００～１．１１００ドル。

ポンドドルもユーロドルと似たような動きを見せている。１４日にはドル売りの動きから１．２５０６近辺まで急伸して、その後は反動安となっている。ただ、それほど目立った崩れは見せていない。なお、１５日に発表された１０月の英消費者物価指数は前年比＋４．６％となり、事前予想の＋４．７％を下回り、前月の＋６．７％から急低下

した。コア前年比は＋５．７％となり、事前予想の＋５．８％や前回の＋６．１％を下回った。インフレ率の鈍化もポンドとの上値を抑える要因となった。ポンドドルもユーロドルと似たような動きとなり、調整一巡後は一段と上値を追う展開が見込まれる。ポンドドルの目先の予想レンジは、１．２２００～１．２７００ドル。

日米以外の今後の経済指標やイベントは、２０日に中国最優遇貸出金利（ローンプライムレート　１年、５年）、独１０月生産者物価指数、２１日にＮＺ１０月貿易収支、カナダ１０月消費者物価指数、２３日に独１１月製造業ＰＭＩ速報値、独１１月サービス業ＰＭＩ速報値、ユーロ圏１１月製造業ＰＭＩ速報値、ユーロ圏１１月サービス業ＰＭＩ速報値、英１１月製造業ＰＭＩ速報値、英１１月サービス業ＰＭＩ速報値、２４日にＮＺ第３四半期小売売上高、独第３四半期ＧＤＰ確報値、独１１月ＩＦＯ景況感指数、カナダ９月小売売上高などがある。

MINKABU PRESS 佐藤昌彦

※投資や売買についての判断は自己責任でお願いします。

＜免責事項＞
本レポートは情報の提供のみを目的としています。投資に関する最終判断はご自身の責任においておこなわれるようお願いいたします。また本レポートに掲載している情報の正確性については万全を期しておりますが、人為的、機械的その他何らかの理由により誤りがある可能性があり、株式会社ミンカブソリューションサービシーズは、利用者がこれらの情報を用いて行う判断の一切について責任を負うものではありません。また、株式会社ミンカブソリューションサービシーズが提供するすべての情報について、許可なく転用・転載等することを固く禁じます。

＜著作権について＞
本レポートの著作権は、原則として当社(株式会社ミンカブソリューションサービシーズ)が保有しており、著作権法、その他の法律および条約により保護されています。本レポートご利用のお客様は、私的使用目的の複製、引用等著作権法上認められている範囲を除き、当社およびその他著作権者の許諾なく、これらの著作物を翻案、公衆送信、営利を目的とする使用等いかなる目的、態様においても利用することはできません。